

草は萌え出で

(昭和五十三年第七十回記念祭歌)

朝倉仁樹君 作歌
田坂幸平君 作曲

一

草は萌え出で郭公は鳴き
あこがむつやどりや
憧れ睦ぶ宿舎に
しつぷうどとううずなか
疾風怒涛の渦の中
あかもと
明り求めて放浪いぬ
ちまたちり
巷の塵をふり払い
はら
悠々迪を歩まん
あゆ

二

蛮声放歌乱舞する
ばんせいほうからんぶ
すがたおお
姿雄々しき吾なれど
われ
原始林の可憐な白花に
かれんしらはな
こころ
心ふるわす春もあり
はる
きよおとめごさ
清き乙女子去りて行く
ゆ
恋に涙す秋もあり
こいなんだあき

三

気高き野心の男の児等が
けだかやしんのおこら
士幌に山小屋をうち建てぬ
しほろこや
十勝の山と平原に抱かれ
とがちやまのの
果てなく魂翔けるなり
は
きび
厳しき北の大地より
きただいち
あら
新たな夢に飛びたたん
ゆめと

四

読み飲み語り夜は明け
よみののかたよるあ
あつなさけとしふ
熱き情に年は経る
まつりび
ああ青春の祭日も
せいしゅんまつりび
はや七十を数うなり
しちじゅうかぞ
と
寮生よ再び楡影に
ふたたにれかけ
みそとせのちつど
三十年後に集わなん